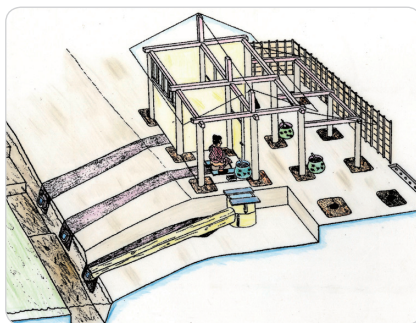


大陸との交流

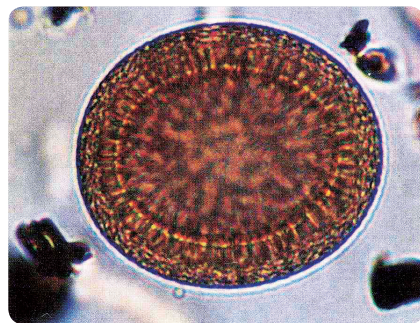
秋田城は日本の各地域との交流だけでなく、大陸との交流もあったことが考えられています。特に、渤海国との交流を示す資料が目立っています。



■水洗厠跡の発見の様子



■復元推定イラスト



■有鉤条虫卵



■復元された古代水洗厠

平成6・7年に行われた第63次調査では鶴ノ木地区東側で古代水洗厠跡が発見されました。水洗厠跡は、掘立柱建物と目隠し塀、便層・木樋・沈殿槽を備えた水洗施設で構成されています。建物と水洗施設が一体化した古代のトイレ遺構は全国で唯一のもので、特別な施設であったと考えられます。また、沈殿槽に溜まった土の中には汚物などに含まれていた寄生虫も見つかりました。寄生虫の中に当時の日本にはなかった豚食に伴う寄生虫(有鉤条虫卵)が発見され、当時交流のあった中国大陸の渤海国からの使用者が使った可能性も考えられています。

渤海は靺鞨人と高句麗の遺民が建てた国で、神亀4年(727)～延喜19年(919)まで、計34回の使節を日本に派遣しています。そのうち8世紀の渤海使の来着地は出羽国が最も多く、神亀4年(727)～延暦14年(795)の第13回使までのうち、出羽国に来着したものが6回占めています。また、古代水洗厠跡は、8世紀中頃から末頃までに使用されたと考えられ、渤海使来着が出羽国に集中する時期と重なります。秋田城がなぜこの地に造営されたかという根本的な問題を追うには、大陸との交流という視点が不可欠と言えるでしょう。



■鉄製鍔釜

平成元年・2年に調査された土取り穴から出土した鉄製鍔釜は、大陸の渤海国で作られたものと非常によく似ています。

秋田城は
大陸との交流も
あったんだ！

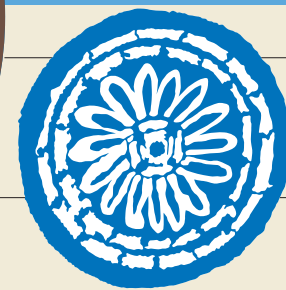


秋田城跡の各種事業やイベントに関するお問い合わせは

秋田市教育委員会 秋田城跡調査事務所
〒011-0907 秋田市寺内焼山9番6号
[TEL] 018-845-1837 [FAX] 018-845-1318
[URL] <http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/ac/Default.htm>
[E-Mail] ro-edac@city.akita.akita.jp



あきまろ 秋麻呂くん 通信



平成26年7月14日 秋田城跡調査事務所

『秋田城』と、
みんなの絆を
つなぎたいから。

古代秋田に集った人々



秋麻呂くん

秋麻呂くん通信は、皆さんに秋田城のことをよく知ってもらい、秋田城との絆を深めてもらうための情報誌です。今回は、秋田城と各地域との交流を物語る遺構・遺物を紹介します。



■8世紀における秋田城を取り巻く世界

古代秋田城と各地域との交流

秋田城は、奈良時代に造られた日本最北の古代城柵です。城柵とは当時の律令国家が東北地方各地に支配拠点として置いた大規模な地方官庁で、秋田城は日本海に面し、交通の要所として各地域を繋ぐ交流の拠点となっており、様々な人々が集っていました。秋田城が造られた8世紀には、「平城京」などの中央政権の都や日本海運による北陸地方、古代の

幹線道路であった「東山道」經由による関東地方、そして当時律令国家の支配が及ばなかった渡嶋(北海道)などの北方世界と交流がみられます。さらに、中国大陸の渤海国との外交拠点としても重要な役割を果たしていたと考えられています。

東山道…近江国(滋賀県)から関東地方・陸奥国(東北地方太平洋側)・出羽国(東北地方日本海側)にかけての古代の行政区およびその地域を繋ぐ古代の幹線道路

都(近畿地方)との交流

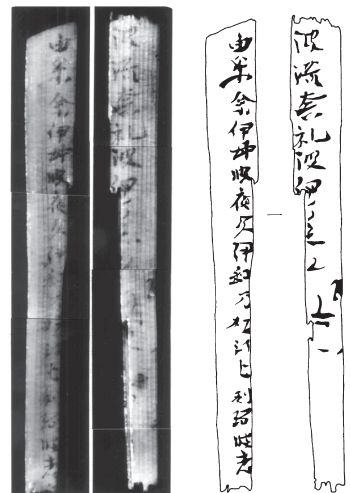
秋田城は律令国家の支配拠点となった地方官庁であるため、都(近畿地方)の文化や風習が多くもたらされています。



■人面墨書土器



■和同開珎銀錢



■第179号木簡「和歌木簡」



■胎衣壺



雅なものがあるんだね。



■灰釉陶器・緑釉陶器・白磁

人面墨書土器は、病気や悪い出来事を起こす「ケガレ」を祓う儀式に用いられたものです。このような祓いの儀式は当時都で行われており、秋田城でも行われてたことを示します。和同開珎銀錢は、東日本では唯一の完形品です。希少なもので、品物の売買よりも建物の平穩を祈るまじないとして使われたと考えられます。また、「波流奈礼波(はるなれば)・・・」と万葉仮名で書かれた歌が記された木簡や、生まれた子供の成長を願い胎盤とまじないの錢貨などを一緒に埋めた容器の「胎衣壺」、灰釉陶器・緑釉陶器・白磁など当時高級品であった焼き物などが出土しており、都の文化や習俗が秋田城にもたらされていることがわかります。

北陸地方との交流

日本海側に面して造られた秋田城は海路が重視されていました。このようなことから、北陸との交流が盛んでした。

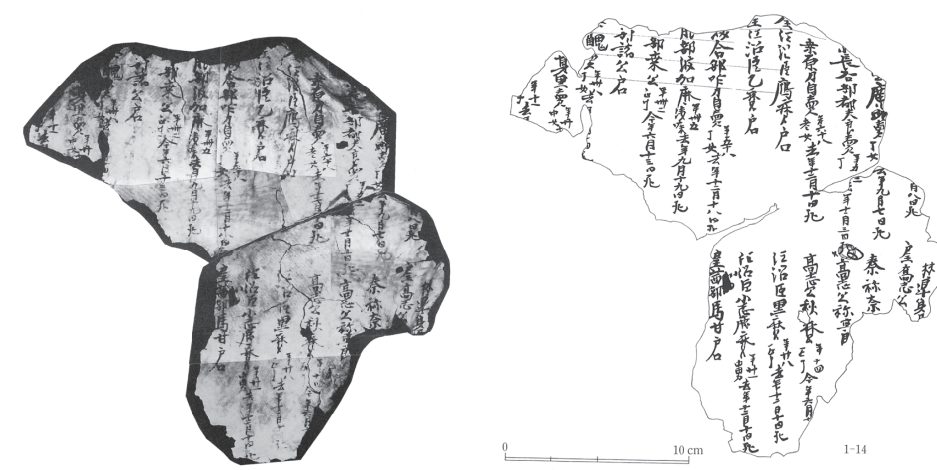


■煮沸用の赤褐色土器甕



■横瓶(左)と右馬之丞窯跡出土の鳥形土器(右)

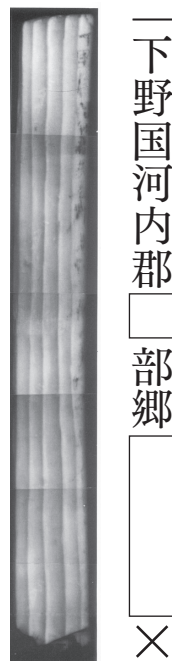
当時、秋田城や秋田平野で日常的に用いられていた煮沸用の素焼きの甕などは、北陸地方の影響を強く受けています。また、横長の瓶(容器)や鳥形土器など特殊な形のものも北陸地方の影響を受けて製作されたと考えられています。



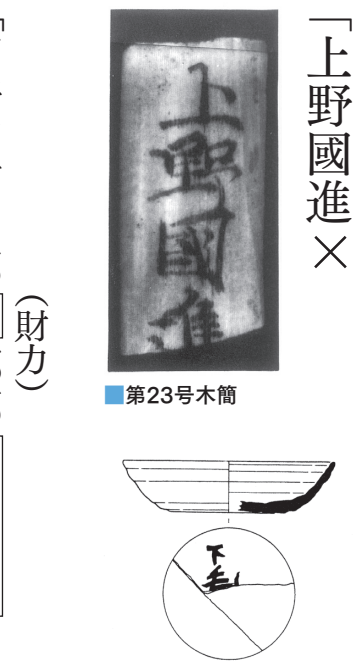
■第16号漆紙文書「死亡帳様文書」(左:赤外線写真、右:実測図)

関東地方との交流

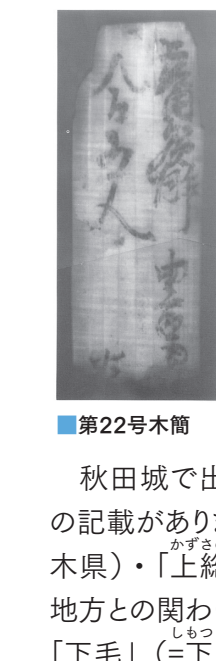
古代の幹線道路の一つであった「東山道」は、近江国(滋賀県)から関東地方・陸奥国を経て羽羽国に通じていたため、秋田城には関東地方との交流も要所でみられます。



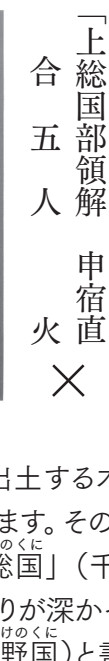
■第4・5号木簡



■「下毛」(=下野国)と書かれた墨書土器



■第22号木簡



■第23号木簡



■秋田城創建期における関東系土器

秋田城で出土する木簡には、物品の送付や請求、事務連絡などの記載があります。その中には、「下野国」(群馬県)・「上野国」(栃木県)・「上総国」(千葉県)の地名が記されているものもあり、関東地方との関わりが深かったことがわかっています。また、土器にも墨で「下毛」(=下野国)と書かれたものや関東地方の影響を強く受けた「関東系土器」が出土しています。

北方との交流

秋田城は最北の城柵官衙遺跡であり、当時、律令国家の支配が及ばなかった北方世界との交流の接点でもありました。



■北方の影響を受けた在地系土器



■第71号木簡「狄饗料木簡」

秋田城および秋田城周辺域で出土する在地の土器は、北方(津軽・渡嶋)の影響を受けたものがあります。また、秋田城で出土する木簡の中には、「狄饗料」と記されたものがあります。「狄」とは北方地域に居住する人の呼び方で、秋田城で北方の蝦夷をもてなす行為があったことを示していると考えられます。このように、秋田城は北方世界の窓口でもありました。